

6年の空白を埋めた！闘争団オルグ

～紋別・美幌闘争団を迎え9日～13日県下オルグ～



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 平山芳夫
編集者 清水孝次

2008年6月20日
第1455号

◎夏季物資販売を
全力で取り組もう！
◎国労加入を
大胆に訴えよう！

地方本部と国労支援県共闘会議は、6月9日～13日に、夏季物販、鉄道運輸機構への署名活動の取り組み要請を合わせて闘争団オルグを行った。紋別闘争団・清野隆団長、美幌闘争団・長縄孝則団長が来長し、6年ぶりに県下の労組をまわった。

昨年12月に開催された国労支援県共闘会議総会で、紋別・美幌闘争団への支援凍結解除が決定され、本年3月には現地激励行動が再開された。そして、今回の県下オルグの実施となった。8日には、地本独自行動として長野駅頭での街頭宣伝行動を行った。貨物総行動に連携するとともに、長野へ到着したばかりの清野、



9日に長野県労働会館で行なわれた「紋別・美幌闘争団 国鉄闘争報告集会」には、長野地区を回った清野団長、大北、安曇野地区を回った長縄団長が揃って参加し、JR不採用からの闘いの経過、大きな山場を迎えている闘いの現状、47名の仲間が他界をし高齢化が進んでいる闘争団の現状、



高橋博久県労組会議議長が主催者を代表し「昨年の総会で、6年に亘った支援凍結を解除した。4者4団体の下での団結を強化する闘いへの決意をそれぞれ訴えた。」

地域住民の足である路線バスを守り、労働者を守るためにしっかりと支援・連携していこう。

長縄両団長もマイクを握って市民に訴えた。今回の闘争団オルグでは、東北信コースへ紋別闘争団清野団長、中南信コースへ美幌闘争団長縄団長があたり、県下14地区労組会議と佐久地区評の加盟単産・単

組へオルグに入り、長野、松本など7箇所(佐久・上小・中高・木曾・上伊那)で報告集会が開催された。両闘争団とは6年の空白期間があつたが、オルグ先では温かく迎え入れていただき団結が一層深まった。

10日には、松本勤労者福祉センターで報告集会が開催され、闘争団報告は美幌闘争団長縄団長が行なった。宮下正夫松本地区労組会議議長は「21年を越える長い闘いとなっている。日本労働運動史上最大の闘いである。一日も早く解決しなければならぬ」「厳しい状況ではあるが、政治状況が変化してきている。総選挙での与野党逆転が解決へとつながる。政治の流れを変えていこう」とあいさつした。

吉田進前国労本部書記長も駆けつけ、JR不採用事件の概要と国労内部の団結回復に尽力し現在の4者4団体の団結を築いたことを話し、「更なる団結の強化と、明るい兆しの見えた今だから闘いへの気を引き締めていかなければならない。皆さんの支援をお願いします」とあらためて支援を要請した。また、国労組合員には、「地域の仲間のこと

地域住民の足である路線バスを守り、労働者を守るためにしっかりと支援・連携していこう。

長縄集会には92名が参加！

松本では50名が解決への意思統一！

地域の仲間と連携し公共交通を守ろう！

◆退職の際は、鉄道退職者の会への加入を！◆
◎鉄道退職者の会 長野地方連合会
電話 026-226-6658

◆交運共済からのお知らせ◆
マイカー共済の新規加入を！
◎全国交運共済生協 長野事業部
電話 026-291-5057 JR:067-2583

意味でも紋別・美幌闘争団への支援を決定した。札幌、釧路、函館の3闘争団にも理解をいただけた」「解決金に雇用・年金を含めた解決をめざす。光は見えてきている、春の来ない冬はない。勝利を信じて闘いましょう」と述べた。

事件は不採用事件だけとなった」「今年4月には平成採用の女性組合員が誕生し、5月には新採の社員が国労に加入した。組織拡大も進んでいる。国労を支えてくれる支援共闘の皆さんの態勢があるから運動が前進している。今しばらく力を貸してほしい」と支援への感謝と闘いへの協力を要請した。

松本地区報告集会

地域住民の足である路線バスを守り、労働者を守るためにしっかりと支援・連携していこう。

全国大会・東日本本部大会 代議員が決まる

六月十四日に公示された全国大会及び東日本本部大会代議員選挙は、十八日に立候補届出が締め切られ、いずれも定数通りの立候補となったため、左記の通り無投票当選となった。(選挙公示第二号を参照)

全国大会代議員当選者については、その抱負を掲載するので参考にされたい。

各代議員には、長野地方本部を代表し、それぞれの大会成功に向けて奮闘を期待する。

第76回全国大会代議員 定数3名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
佐藤正幸	49	長野機械技術セ	地本書記長
清水孝次	48	松本運輸区 運転士	地本執行委員
太田克彦	51	松本駅 営業	支部委員長

第22回東日本本部大会代議員 定数4名 (届出順)

氏名	年齢	職 場	組合役職名
粕尾 彰	47	小海線営業所 中込駅	地本執行委員
高橋 徹	50	長野新幹線保線技術セ	支部副委員長
吉澤英夫	53	長野駅 営業	地本執行委員
小林信五	48	長野総合車両セ 製造科	長野地区協副議長

第76回定期全国大会は、7月30日～31日に静岡県伊東市で開催される。また、第22回東日本本部定期大会は、9月12日～13日に東京地本管内で開催される。

以下に全国大会代議員当選者の抱負を掲載する

佐藤正幸

四九歳
長野機械技術センター
施設技術主任
地本書記長

今定期全国大会は、国労の最重要課題であるJR不採用問題の早期解決と、組織拡大運動を全力で取り組むための運動方針を決定し、国労の団結を内外にしっかりと示すことにある。JR不採用問題は、現在重要局面を迎えているなかで、地方本部は支援共闘とともに、各種中央行動、地本独自行動、闘争団支援など様々な運動を積み上げてきた。特に、闘争団支援では長年の課題であった紋別・美幌両闘争団と支援凍結解除、そして6年ぶりの県内オルグ受け入れを通して、改めて被雇用者の苦悩を忘れることなく、一日も早い解決に向け全力をあげることを確認してきた。

JR職場では、旅客・貨物会社問わず、効率化が進み、技術継承・技術力低下が深刻な問題となっている。労働条件向上と安全・安定輸送の確立は、労働組合の真価が問われている。

一方、国労と貨物会社において係争事件の和解がはかられたが、公平・公正な人事運用、国労差別の是正、健全な労使関係の確立に向け、実効ある和解とするためにも、地本・貨物協・分会の連携した取り組みが重要である。

国労にとって組織拡大は緊急かつ重要な課題である。長野地本では各級機関の取り組みにより、昨年9月から4名の仲間を拡大してきているが、今後の組織を展望したとき、全国的にも組織拡大の奔流を作り出す決意と運動が求められている。あらゆる闘いの前進に向け、「総団結・総決起」の全国大会にするため、成功に向け全力を挙げる決意である。

清水孝次

四八歳
松本運輸区
運転士
地本執行委員

今年の国労全国大会の最大の課題は当然にも「1047名の採用差別事件の政治解決」状況を作り出すために「国労」は何をなすべきか！どう闘うべきか！その方針の確立にあることは言うまでもありませんが、この課題はここ数年、毎年論議され、「解決に向けた最大の山場」と毎年のように言われてきました。しかし、残念ながら、いまだに政治解決状況を作り出すことができていません。鉄建公団訴訟や全動労訴訟の2つの「慰謝料支払い判決」で、解決への流れが見え

たかに思いましたが、今年3月の運輸機構訴訟では「時効」によって切捨てられ、その流れを確たるものにするのができずにいます。あらためて1047名問題は「国の意思による首切り」であり、裁判や、自治体決議や、議員要請としてILO対策などで私たちの有利な事象を積み上げながらも、国・政府が「解決をしなければならぬ」と重い腰を上げざるを得ない状況を「国労」が作り上げない限り、解決することができないことが鮮明になってきています。今の「国

労」の力量を考えた時、それは、委員長エリア・地本の総決起によって「責任は国鉄継承者にある」という最高裁判決や「早急に解決せよ」というILO勧告等を国・政府に突き付け、判断を迫る政治状況を作り上げるしか方法はないと考えます。そして、非正規職格差問題や外国人問題そして反戦・平和の闘いの場に国労の旗が翻る方針の確立のために奮闘したいと思っています。

太田克彦

五一歳
松本駅
営業指導係
中南信支部執行委員長

国鉄闘争は一九八七年四月一日に生まれたわが息子に子供がいるほどの長さになってしまいました。明るい兆しはあるもののトンネルの出口はいまだに見えないのが現実です。しかし、闘争団員の高齢化も進み、早期解決は組合員のみならず多くの支援共闘の仲間が願っているところ

です。私はどんなに正しい闘いを勝ち抜いても組織が無くなつては意味がないと思います。職場には国鉄そのものを知らない平成生まれの社員が入社してきているのが現状です。国鉄闘争の早期解決にも、風化させないためにも世論形成も大切ですが、国労運動そのものの継承者拡大が急務になっていいると考えます。

加入してくれた若い仲間には「国労の人は相談に乗ってくれたし話を聞いてくれた」と言っています。いま他労組ではできない、誰もが職場の中でモノが言える明るい職場作りを私たち国労組合員が取り組むことを求められていると思います。若い仲間には職場でのリーダーシップはもちろん、時間のかかることではありませんが日常的なつながりも大切にしなければなりません。

先輩から受け継いだ歴史ある国労運動を終わらせることなく未来につなげるためには、今こそ組織拡大に全力で取り組まなければならないと思います。そのことが国鉄闘争の早期解決にもつながると確信しています。その一翼を担っていくことを最後にお誓いし決意表明いたします。